

健康教室もやっていて、病気の事、介護や介護保険、私
がやっている国際医療協力の話もよく出てきます。

私たちがやっている重度の障害児の支援施設「小さなたね」
があるんですが、その話をしてもらおうとき、胃ろうや人
工呼吸器とかつけている子供さんも参加します。

にのさかクリニック在宅医療の特徴として

- 病気、障害によって差をつけない
- 他機関多職種との連携重視
訪問看護ステーションを中心とした医療チーム、ケアマ
ネージャー、訪問入浴、ヘルパー、在宅ホスピスボラン
ティア、理学療法士・作業療法士、民生委員・行政
などの生活支援チーム
- 患者、家族をひとつの単位と捉えチームで支える
- 職員の教育、研修（地域・全国とのつながり）
私たち在宅チームの役割は、患者・家族に安心を与え希
望を持ってもらうことです。

在宅ホスピスは仲間たちによって成り立っています。
特に訪問看護師は、在宅ホスピスの要。これからは医者
よりも、もっと訪問看護師が出て行きレベルアップし、い
ろんな力をつけて行くことが大切だと思っています。

福岡では、10年前から「在宅ホスピスを語る会」をや
っています。これは在宅を経験した人の話を地域の人が聞
くという会です。死を見つめ、死を語り、コミュニティのケ
アの力を育て、市民のエンパワーメント（ひとりひとりが、
発展や改革に必要な力をつける）につながると思います。
四日市や全国でも是非やっていただきたいです。

バングラデシュに 看護学校を！

安全なお産と女性の
自立を目指して

2017年2月に開校しましたが
まだ5階建ての3階までしか
完成していません。 目標まで
あと少し

募金のご協力をお
願いします

<振込先>
ゆうちょ銀行
01760-5-142322
バングラデシュ
と手をつなぐ会
看護学校



座談会

司会：石賀先生

Q石賀：今の小学生の悩みの3位に「人
はどうやって死ぬの？死んだあとどうなる
の？」中学生の6位に「どうして人を殺し
ちゃいけないの？」と真剣に悩んでいる。
それに対して大人が認めようとしない。
何かヒントがあれば

僕が「いのちの授業」をしているのは
そのことがあったからです。
看取りの動画など見てもらったり
往診のたびに子ども達を巻き込んで
亡くなる前にお世話
をしてもらってます。
最期命のバトン
を繋いでもらいたい
が体験できる子供
は少ないです。



花戸：日常生活の中で、いのち
と関わる仕事している人と接す
る。家族でなくても地域の中で
経験をします。病気の人・老人・
障害のある子どもたちを分けな
い。自分とは違ういろんな人
と接することで命の大切さを
学んだと思う。

二の坂：思うのは、大人た
ちの対応によって子どもた
ちが変わって行く。
地域全体で考える。
学校の先生たちと話し合う。
障害を持った子どもたちとも
会ってふれあってもらいたい

Q石賀：これからの夢は？
僕は患者さんの気持ちが
わかって看取りができる
医者を50人育てたら引退
したいと思っています。

二の坂：在宅の普及・質の向上。
世界の情報を取り入れ、日本の
良いところも発信する。
子どもホスピスを地域の力で
支えるようにできたら

花戸：今やっている
ことは回りまわって
自分のためになるの
で、ずっと続けて行
ければいいなと



石賀丈士医師



2009年、四日市市山城町に緩和ケアを
中心とした訪問診療専門のクリニック
を開業。西日本一の看取り数を誇る。
子どもたちに生命の大切さを伝える
「いのちの授業」にも力を入れている。

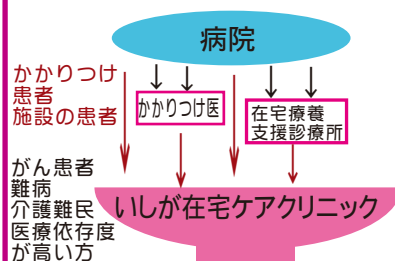
「いしが在宅ケアクリニック」は緩和ケアを中心としたク
リニックです。往診は、南は松本街道よりちょっと南側く
らいまで、北はいなべ市、桑名市、西は菟野町とかなり
広範囲にわたっています。

現在医師10名、スタッフ総勢40名で自宅330名、
施設200名を訪問しています。

よくメディアに取り上げていただくのは、年間在宅看
取り数が340名で西日本で一番多いこと。看取りというも
のは、お二人の先生も言われるように安心して最期まで
過ごせた結果が在宅看取りなんです。

四日市が変わって来たな
と思うのは、私が始めた
9年前の看取りの場所は
100人いたら、80人は病
院でした。でもH28年で
は67人に減っている。自
宅・施設の看取りが進ん
でいるという嬉しい結果です。あした葉の会を始め、市長
もそうですが、四日市では在宅を進めようという文化が
根付き始めているのでこれを進めて行ければと思います。

四日市モデル（H21年7月～）



*西日本豪雨の災害に遭われ、亡くなられた方に対し全員で1分間の黙とうをしました。

明日の地域医療を考える住民の会・あした葉

会長 伊世 利子さん

2011年6月から活動を始めて7年が経過し、在宅フェアも5回目となりました。
地域医療の中でも在宅療養啓蒙活動を重点に行って参りました。「地域まるごとケア」とい
われ、連携がカギになります。

健康で住みやすいまちづくり、最期まで暮らしやすい居場所について考えていただくきっかけやヒント
になれば幸いです。

お問合せ・TEL: 090-8325-8816

FAX: 059-321-4706

Eメール wkiwkiriko@solid.ocn.ne.jp

ホームページ

<http://ashitaba3.com/>